

経済という潮流

令和5年11月5日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

生活需要への供給が経済である。これらは貨幣経済とともに、社会のサイクルを形成するものである。

自由経済システムは、自由な経済活動を許容するものである。資本主義は、所有を許容するものである。

自由経済システムにおける自由な経済活動は、競争原理とともに、社会の進歩を自己において行うものである。

唯一経済が、自由活動において、統制を離れ、その自己の活動を拡大することは、ビジネスにおける渴望を与えるものである。

世界経済の現実を考察するとき、巨大資本は資本主義という現実をコントロールしているのである。

経世済民という儒教の思想において、経済は人々を潤すものである。しかし富は、その欲望を集約し、現実を与えるものである。

これら現実グローバリゼーションと自由貿易システムにおいて現実を固定化するものである。

これらは東洋的な倫理価値観と西洋の社会倫理性における経済とビジネスにおける、理性が存在することは留意したい。

先端技術の進歩は、経済の自己プレゼンスを拡大させるものである。また、経済は競争原理を有することを理解しなくてはならない。

これらは生存と競争という、人間の本能を基盤とした現実の進歩性であることは正しいのである。しかし生存と競争を離れるとき、世界は平穏と平和を得ることは正しいのである。